

都響倶楽部JOF C交流会2019役員会・幹事会議事録

2019年（平成31年）3月17日午後12時00分～13時00分

於：アークヒルズカフェ（東京都港区六本木1-3-40 カラヤン広場 スペイン坂入口）

出席者

会 長 上田 文雄（札幌くらぶ会長）
 副 会 長 長島 榮一（仙台フィルハーモニッククラブ会長）
 " 佐藤 彰（山響ファンクラブ代表幹事）
 " 小野 善平（群響ファンズ会長）
 顧 問 加藤 聡（山響ファンクラブ顧問）
 幹 事 長 西川 吉武（札幌くらぶ副会長）
 幹 事 河内 芳人（石川県立音楽堂楽友会代表幹事）
 " 山田 博子（名フィル・ファンクラブ代表幹事）
 " 佐藤 幸一（広響フレンズ J O F C 担当）
 事務局長 武藤 義典（札幌くらぶ副会長・J O F C 担当）
 会 員 熊谷 哲（仙台フィルハーモニッククラブ会員）
 主 催 者 篠原 敏修（都響倶楽部代表）

○武藤事務局長 時間となりましたので都響倶楽部 J O F C 交流会役員会・幹事会を開催させていただきます。

去年は、胆振東部地震の後にもかかわらず多くの方々に参加いただきありがとうございます。そして札幌による「音楽による心の復興コンサート」の開催費の一部として義援金までいただき感謝申し上げます。

あらためてお礼申し上げます。

それでは議事に入らせていただきます。

議事は西川幹事長により進行、説明をさせていただきます。

○西川幹事長 今回は都響倶楽部篠原代表によりこのような場を設けていただきありがとうございます。

皆様ご存知のように昨年9月22日に J O F C 総会を札幌で開催し、「音楽による心の復興コンサート」の開催に限定した義援金により被災地4町でのコンサートも行われ、お礼を申し上げます。

今回役員会・幹事会を開くということは、前々から小野会長や山田幹事から提起があって、なかなか開く機会がなく都響倶楽部 J O F C 交流会を機会に開くことになり、趣旨は2点でこの J O F C を今後とも続けていくという方向の確認と、役員がかなり長いので併せてもう13年になります。一回も変えていませんのでここで J O F C も新しい雰囲気をつけたいらどうかと思い、これをチャンスに皆さんに提起していきたいと思っております。

今日はこの2つを整理していきたいと思っており、そのためには J O F C の開催の意義、あるいは意味を共有してく必要があるなど思っています。一つ目の皆さんへの話題提供としては、J O F C の持つ意味というものを継続を含めて、あるいは反対を含めてあればご審議いただければいいと思っております。

続けるということになれば、さらに今後の新しい展開のための役員改選というものはいかなものかと、皆さんにお諮りしたいと思います。

では早速、この問題で会長のほうから何か提起がありますか。

○上田会長 どうもありがとうございました。たぶん、皆さん、意義があると思ってそう仰っていると思いますが、情報共有を毎年しながらいろんな工夫によって、地元のオーケストラを元気づける活動がそれぞれ行われていることを確認し、日本のプロオーケストラ、地方のプロオーケストラを応援して日本の文化度を上げていくという、高邁な理想に少なからず貢献していこうという意欲を、毎年確認するということはとても大事なことだと私は思っています。

ぜひ13年続き、より拡張していくことから、まだ参加していない九響倶楽部とか加盟可能性のある組織を含めてお誘いしながら活動できればうれしいなと思っていますので、違う意見があればどうぞ言っていて、どうすべきかご議論いただければなによりかと思えます。

○西川幹事長 では順番にご意見を拝聴していこうと思います。

では、仙台フィルハーモニークラブ会長の長島さんからお願いいたします。

○長島副会長 頂いた資料を基にスタッフのほうで打ち合わせをいたしました。その結果、基本的には継続のことについては、J O F C に会として参加して活動していくことについての異論は一切、ほんとにゼロで今後も継続していくことは異存ありませんでした。

○西川幹事長 続いて石川県立音楽堂楽友会の河内代表をお願いします。

○河内幹事 この J O F C の会議を持つのは非常に意義のあると思っていまして、別に異論はありません。ただ総会を開いて宣言を採択していますが、それを実現したかどうかという検証がなにもされていないと思うので、無理に総会ではなくてこういう交流会みたいな感じで和やかに実施できればいいかなと、総会はそんなに無理にいらぬかなと私は思っています。

○西川幹事長 総会宣言は、最近その都度幹事のほうで検討してもらって、何か訴えるものがあれば宣言しましょう、訴えるものがなければ宣言はしないことにしましょう、ということになっていましたから、これについてはそんなに異議はないと思いますが、問題なのは総会そのもの存続であって、「存続ですよ」との声あり)むしろ交流会だけでいいのではないかと、「交流会だけでいいんじゃないかな」という声あり)という声があるかもしれませんし、「参加しやすいのではないか」という声あり)確かに皆さんの持つてくる意見を交流するという場を設けていますので、それらを含めて皆さんのご意見があればと思います。

続けて、名フィル・ファンクラブ代表幹事の山田博子さん、お願いします。

○山田幹事 私もこれを続けていくことはいいんですけど、13年もやってきて、その何か一つ結果が見えないので、そこは見えるようにするのはそこは総会でそれぞれ発表することが必要なとそういうふうには思います。しかし、総会開催の負担が大きいと感じるのであれば、こういうところでこんなことをしましたということを紙でしか発表できないので、負担の少ない範囲での総会は必要と思っています。

○西川幹事長 ありがとうございます。

前回の J O F C 札幌総会のときは、あいさつなど部外者を入れないでもうぎりぎり切り詰めて皆さんの意見交流ができる総会を作りこんだんです。あれが結局、究極の総会

のやり方かなと思っているんですけど、それで約2時間弱 J O F C のメンバーだけの時間が取れたんで、これはこれで意義があったと思うんです。そういう意味での交流会だけというのもあるかもしれないけど、総会をできるのならやっぱり今までやってきたことの証の一つとして総会の中で報告することが、活動してきた区切りとして必要だと思えます。札幌総会ときは各クラブの推奨事例を発表しました。そういう意味では J O F C があってよかったとの思いの一つかなと少しですが表せたかなと思っています。

○上田会長　　まだ皆さんのご意見の途中で申し訳ないのですが、行政に対する緊張感というか、文化行政に対する緊張感をそれぞれの地域で J O F C という全国ネットワークが存在すること、存在自体を発信するだけでもそれなりの効果があるのではないかと私は気がしています。文化部長なり県の担当役人なりが参加して、あっ、こんなのあるんだ、全国で結構やっているんだということを意識してやること自体でそれなりの緊張感を作ることにつながる、そんな効果があるのじゃないかという気がしますので、単なる交流会だけではなく、そこには会議があるぞというのはそれなりに意義があるような気がいたします。

ご意見の途中で申し訳ありません。

○西川幹事長　　続いて広響フレンズの佐藤さんお願いします。

○佐藤幹事　　いま、再建中途ということで、これは私個人の意見ですけど、今の形式はずっと続けていいと、総会については内容を会議的なもでもいいし、交流会に準じた穏やかなもでもいいし、その時の雰囲気によって総会の内容を変えて、その都度続けていって、内容についてはみんなに投げかけてもいいし、幹事会での意見交換でもいいし、内容の変化についてはその都度その都度検討していって、工夫してやっていけばいいと思います。本当にやめるとか、出直しするということであれば総会できちっとけじめをつける方向でいいと思います。一応、日程が決まっている仙台フィルハーモニークラブ、山響ファンクラブまでは現地に任せてしておいて、2年ほど続けていって、次から検討したほうがいいと思います。広響フレンズとしてもそのほうが、今広島で開催できませんので、根幹部分だけは残していってもらえれば、交流会というか J O F C を続けていってもらいたいというのが願いです。

○西川幹事長　　続いて山響ファンクラブ代表幹事の佐藤さん、お願いします。

○佐藤副会長　　山響ファンクラブとしては毎年持ち回りで交流会をやって、地元のオーケストラの演奏会を聴いて、淡々と続けていくのがいいのかなと思っています。そのほかに何かやりたいというのであればそれをこなしていけばいいし、ちょっと立ち行かないというのであれば、その時にどうするか、みんなで考えていけばいいと思います。

○西川幹事長　　ありがとうございます。

山響ファンクラブ顧問の加藤さんお願いいたします。

○加藤顧問　　3周目くらいになるのでしょうか、会の意義自体は極めて大きいものがあり、特に山形で開催していただいたときは上田会長と吉村山形県知事とお話をゆっくりしていただき、文化に対する意義とか、文化はお金がかかることとか、ホールを作っていただくこと、今ホールは7割がた新しいホールができていますけども、そういったことに繋がっていったことは山響ファンクラブだけの力ではなくて、J O F C の力は極めて大きかったと思います。

そういう訳で会の存続、存在については当然必要なこととして、活動の内容についてはぜひ身の丈に合ったものにしていただければいいんじゃないか

と思います。よろしくお願ひいたします。

○西川幹事長 それでは続いて都響倶楽部代表の篠原さんお願ひします。

準メンバーと書いていますが、メンバー同様ですので、きちんとご意見は聞いておきたいと思います。

○篠原都響倶楽部代表 都響倶楽部の中でいっているのですが、J O F C の総会なり、交流会に出て感じるのは、東京都、東京というのは非常に特殊なところだなと。とにかくオーケストラが8つも9つもある、外国からもすごく注目され、そういう中で都響の応援団というのは紹介価値というのが大変あると肌で感じており、他方で日本全国の方々の地方のオーケストラを応援している方の意見を聞くというのは、まったく違った視点を持てるんですね、目を開かれたということもあるし、そういう機会というのはこれからも持ったほうがいいのではないかと考えています。

そういう意味でも自分たちのポジションみたいなものをもっと客観的に見たほうがいいですね。そういう意味でも特に意義があるんだなと思うし、今回、都響の事務局もチケットを集中して手配して、こういう催しがあるんだなと再発見していて、そういうものも大切にしていけることが大事だと思っています。

やり方としては交流会とか、どういう風にやるのかというのはやり方があると思うのですが、地区的に工夫してやるのがいいのではないかと考えています。

○西川幹事長 ありがとうございます。

続いて群響ファンズ会長の小野さんお願ひいたします。

○小野副会長 J O F C の意味として全体に共通した課題があると思いますので、総会を開いてそうした課題を確認しあう、そして新たな視点を得る、そうしたことを話し合える総会も大事なのではないかと、基本的には個々のオーケストラファンクラブの実情が違いますので、個々の課題となりますけれども、それを各地区で持ち回りで行う、そして各ファンクラブの背後には全国組織があるということが、いろんな意味で存在感を大きなものにしていける、そういうものであると思いますので、今の持ち回り方式で総会を行う、これが大事なことはないかと思っています。

○西川幹事長 ありがとうございます。

あとそれぞれ皆さんのほうから、今の事に対してご意見があれば、発言いただければと思います。

○上田会長 群馬のときは新しいホールにしたほうがいいという話がありましたよね。

○小野副会長 それぞれの状況に応じた形で全体が繋がりあるということは、上田会長の市長時代のつながりで勝手なお願いをしながら市長とも話していただいたり、そういう形で活用させていただきました。

○西川幹事長 ある意味で皆さんのご意見を少し整理すると、やはり紙面に書いてあるもののほかにも行政に対するインパクト、やはり繋がり、あるいは知ることなども含めて事務局サイドの、ある意味ではこういう組織が日本全国に横断で存在すること自体の意義というのは、やっぱりあるんじゃないかという意見も出ていました。

皆さんの方向を確認すると J O F C はこのまま続けると、しかし内容についてはそれぞれの状況に応じ、開催するところで宣言を出そうが、出すまいが、あるいは行政をどのように扱おうが、新聞社をどうに扱おうが、それは自由で結構だ、というような緩やかな塊でいいのではないかと考えるんですよ。

この場の集約としては、今後これを、さらには形態を変える、変えない、ということ

も含めて続けていくということで衆議一決ということにさせていただきます。
よろしいでしょうか。

(はい。結構です。という声あり)

○上田会長　いま、篠原さんがいわれたようにオケの事務局の皆さん方のファンに対する考え方とういのか、スタンスとういのか、聴衆を大事にする、あるいは参加してもらう、そういうのが緩やかな形で全国で運動として盛り上がってきている、ということ認識してもらうこと自体がとても大事なことでないかと気がするのですよね。

行政と楽団の事務局サイドの認識の仕方を、聴衆を大事にする意識をもってもらうための組織とういのか、全国でこういう運動がありますよ、というのがとても大事な気がします。

皆さんにご賛同を得ましたので、賛成多数ということでよろしく願いいたします。

○西川幹事長　よろしく願いします。

では、続いて二つ目の議題に移ります。

続けていくにあたっても様々な刷新が必要だと、いう声もあります。そういう意味では今後の役員体制をどうしようか、この問題にひとつ入っていきたいと思います。

若干提起はしておきましたけど、一つ目は会長の継続あるいは顧問に就任、等々も含めて13年目に入りますので、過去12回を牽引してきたというところで、どうだろうか、それから幹事長についても、それから事務局長、武藤さんにしても同じく12年続けています。

そういう意味では、先ほど意見もあったように新しいひとつの J O F C を付け加えていくには、やっぱり新しい体制が必要なのかな、というわけで現在考えています。場合によっては西川も、武藤も、もし残していただけるのであれば副会長として、ポジションを作っていたらいいのであれば、今後いろいろなところのオーケストラや、アタックする、あるいはそういう開拓する部分も含めて担えるかなと思います。

そういう意味では新しいポジションになると思いますが、副会長兼アドバイザーというものをひとつ整理してもらえるのであるならば、参加できるのかなと思います。もちろん、変えたらだめだという方もいらっしゃるのかもしれませんが、この辺のところを皆さんと一緒に議論していけたらと思います。

○西川幹事長　それでは今度は反対回りで、群響ファンズ会長の小野さんのほうから意見をいただければと思います。

○小野副会長　札幌くらの皆さんにお世話になっていて、それに依存してしまっているという状況にあるんですけども、やっぱり会長、やっぱり人脈としての形でのトップのところでの、何らかの形でやっぱりトップとしての名前としては上田会長にはお願いできればなという気持ちなんですけども・・・。何とかお願いします。それ以外はみんなまで共有しながら行くという形が必要かと私は思うんですけども、何とかやっていただけないでしょうか。(「やってください」という声あり)

○西川幹事長　群響ファンズの意見が出ましたので、都響倶楽部代表の篠原さん、何か意見がございませうか。

○篠原都響倶楽部代表　J O F C に顔を出すようになったのは、ここ最近ですのでどことういのか変わったほうがいいのかそういうつもりは全くなく、このまま継続するのがいいと思っています。

都響倶楽部の代表をやって10年、今年5月に総会をやるんですけど、そのときに代

表を降りようと思っており、降りても別に都響倶楽部はそれで変わることはなく、若い人たちに世代交代、やってもいいという会員が出てきたので、やってもらおうと思っています。ある程度いくと新陳代謝というか、若がえりは必要かと思っています。

○西川幹事長 続いて、山響ファンクラブ顧問の加藤さん、お願いいたします。

(佐藤副会長より「私がやります」という声あり)

○佐藤副会長 J O F C の役員は、我々個々のファンクラブの役員がベースになって作るわけなので、ファンクラブの事情で主催者が決まらなければ、とりあえず今のままでやっていくしかないんだろうなと思っています。

○加藤顧問 一昨年の J O F C のときに、上田会長が多少お酔いになってお前そろそろやれよ、ってみたいな、たぶん酔っぱらっていらっしやったと思うんですが、「(「いやいやそうじゃないよ」という声あり) J O F C というのはファンクラブの集合体であって、そこに寄せられる声の力というのは非常に大きなもので、先ほど上田会長と知事と会っていただいたこととお話ししましたが、上田会長だから会えるので、上田会長だから会わせる意味があるので、上田会長以外の方になるのは私は全く考えられないのです。

たぶん、皆さんも同じだと思います。そんなお話もあって昨年の6月に札幌に行ったときに、西川さんと武藤さんにお話しをしましたが、それぞれの持ち回りの会は当然地元ファンクラブさんが実行部隊になられるわけなので、J O F C の役員会より独立して、たとえば実行委員会のようなものを毎年設けて、実行委員会は実行委員長というのをつくられて、毎年毎年の会の運営を引き継いでいく、というふうな事が考えられるのでは、とお話しをしました。今回の都響倶楽部さんがセッティングいただいた会も、やっぱり武藤さんと西川さんいないとですね、なかなか大変だなというふうには実際のところ思ったりしていました。

これは皆さんの役員については大変なところだと思いますが、上田会長には命あらん限りやっていただかないと、と思っております。

○西川幹事長 広響フレンズの佐藤さん。

○佐藤幹事 特に利害関係とか、そういうことは問題あるわけではないので、皆さんの特に札幌の方の精神的負担とか、多少あるかもしれませんがこのまま続けていただいて、いいのかなと、特に問題ないですよ。

それが私の意見です。そうしないと全体を把握できてる方というのは、札幌くらぶの3人の方でないとできませんので、そういうことで問題なければもう少し続けていってもらっていいかな、と思っております。

○西川幹事長 いま、広響フレンズの佐藤さんから意見をいただいて、特に問題がないというのが一番問題なんですよ。そこのところをはき違えないように、やっぱり皆さんでご検討いただきたいなと思っています。

続いて、名フィル・ファンクラブ代表幹事の山田さん、お願いします。

○山田幹事 もうこの J O F C を語るときに、会長は上田さんというふうな方です、というだけでみんなが、ああそうなのと、ものすごい方で世間的に認められるというか、大変だと思うんですけどもこれだけいますので、何とかみんなで会長しかできないことは、上田さんでしかできないと思いますので、私も命ある限りお願いしたいと思います。

○西川幹事長 石川県立音楽堂楽友会代表幹事の河内さん、お願いします。

○河内幹事 J O F C の顔として上田会長は絶対不可欠だと思っていますので、倒れるまで続けていただきたらと思っています。

やはり、信用度といったら変だけど、行政のほうに紹介するとき、前札幌市長という肩書がある人がいたほうが、向こうの反応が違いますので、そういう人がおられたほうがいいと思います。

それから幹事長、事務局長につきましても他の人がやったことないというか、全体の流れ、動きというのが全然わかっていないので、上位下達とっては何だけど横の繋がりとというのがあまりないので、これまで上下の繋がりが大半だったので、そこがちょっとネックになっていて、ほかの団体がなにをやっているのか判ってないということもありますので、もうしばらくやっていただいて、横の繋がりをスムーズにいけるようなシステムというようなもの作ってあげればいいかな、いけないかと思っています。

そのシステムからやっていただいて、後任を、新しいシステムを何とか、引継ぎを、いきなり変わられても手に負えないと思うんで、もうしばらくお願いいたします。

○西川幹事長 仙台フィルハーモニークラブ会長の長島さん、お願いします。

○長島副会長 今日この場に出て、行政への緊張感を伝えるとか、事務局にしてのアピールとか、そういう視点というのはやっぱり上田会長でないと聞けない話だなと思わしてね、会長職については基本的にはお続け願いたいなど、また実は裏話なんですけど仙台の今年の11月の総会に会長がいらっしゃるか、いらっしゃらないかによって、市長が来るかどうかというのが左右して、今秘書課がぶれています。お願いはしているのですけれど……。そういう意味でも来ていただきたいと思うし、続けていただきたいと思います。

ただ、事務局の体制については、スタッフで意見交換したんですけれど、その場で出たのはこの中でどうしようというのではなく、私を含めて次の世代の人間が仮に J O F C の担当として出てきて、そういう世代交代があるのではないかと、私が思いますのはそうなりますと通信手段とか、信頼関係のつくり方とか、世代交代する若い人なりのやり方があると思うのですね。

そういう意味で所属団体での世代交代は進めてもいいのでは、それが会長、副会長ではなくても J O F C 担当とかですね、そういう形ででも新しい顔が入ってこれるステージは作れるチャンスはあるんじゃないかというふうに思っています。

○西川幹事長 なかなか皆さんのご意見を聞くと、上田会長続投というところがどこに言っても理由があるんですね。やはり地元の自治体に対してもインパクトもあり、あるいは今まで担ってきた実績があり、いろいろなことを含めると会長でいるか、いなか、ということは重要な問題なんだろうなというふうに思います。

ただ、加藤顧問、小野副会長からも提案があったように、顧問だとか、こういう形で残っていただけなのであれば、従来の会長として、従来どおりやってもらえるのであれば、それはそれでいいのかもしれない。

会の運営としては、トップに立つのは従来、私も幹事長としてやってきましたから、そういう意味ではそこは交代することもあり得る、というふうにも受け取りました。皆さんにお聞きするのですが、会長を会長職として継続するか、あるいは顧問、あるいは名誉顧問、もう一つ何と言いますか、風来坊的に引っ張り出すというようなイメージからすると顧問という役割もいいのかなと、自由に参加できますので上田会長としても、そういう方向も一つなのかなと思いますが、皆さんその辺に関してどう思います。

実は私と武藤事務局長も取り方いかんによっては、少し考え方を整理しなければいけないかな、というところもあるのですよ。

○小野副会長 一つですね、トップが変わることと、実務的な部署を一緒に変わられてしまうと困るな、正直な話なんですね。変わるとすれば段階的にする、今一つ上田会長の一般的な知名度や信頼度による訳なんですけど、とにかく総会するときには何らかの形で出ていただきたい、というのがお願いしたいということです。

それ以外の実務的なところは、もし交代するといいますか、負担を軽減するといいますか、それはそれで考えても仕方ないのかな、というふうになるのですけれども、その場合もし変える場合には事務局におけるノウハウを伝えると意味で、とりあえず留任していただくか、あるいは問題も大変ですので、上田会長は会長職にとどまっていたいで、西川幹事長あるいは武藤事務局長のほうは、徐々にバトンタッチしながら穏やかに新しい体制に移行してほしいなと考えてやっていただいほうが、次の新しい世代も安心できるかなという気がするんですけども・・・。

○西川幹事長 ずいぶん遠回しに言われた気がするのですが、会長はぜひ残ってほしいと、名称は顧問でも、会長でも何でもいいと・・・(「会長がいい」という声あり)。

加藤さんはどうですか。

○加藤顧問 J O F C のトップであれば、呼び方はどうでもいいと思います。会長のいない名誉会長とか、(「会長がいい」という声あり) 名誉会長がいて会長がいるというのはだめです。

○山田幹事 会長がいい。

○西川幹事長 ずばり、会長がいい、ということで上田会長、どうでしょう。

○上田会長 私は別に邪魔になる仕事ではないし、仲間内の仕事ですから、たまたま行政の仕事を、しかも大都市の札幌市の市長をさせてもらったというのが、一つのインパクトになるのは間違いのないことだと思いますので、自分がどう思おうが、それを活用していただくということは、活用できるのであればいくら活用していただいてもいいと私は思います。

言い出しっぺの団体の組織の事でもあるし、終身会長になっても仕方がないかと思っています。(「終身会長、ありがとうございます」という声あり) 今受けたらそういうふうになってしまうだろうなと感じていました。

それで、今までもそうですが実行員会、加藤顧問が言われるように、各クラブの持ち回りで総会を開く、それで実行委員会を作って実行委員長がおられて、事務局と連携していく、なんだか元どおりに戻ったような気がします・・・。

○武藤事務局長 いいですか、私から一つ提案しても。今すぐ急に全部変わってしまうというのは、皆さんに負担が残ってしまうと思うのです。例えば、私、事務局長をしていますが、その下に事務局次長というのを新たに設けて、徐々に業務を移管して行って、次の総会ときには交代する、幹事長でも例えば幹事長代理みたいな職を置いて、徐々に引き継いで緩やかに後退していくというのはどうでしょうか。

○山田幹事 後に受け継ぐ人が十何年もやった目の人と比べられるとかわいそうですよ。

○上田会長 そりゃーそうだよな。そのとおりだ。

○西川幹事長 新しい考え方でいいんじゃないですか。

○山田幹事 いやー判らないよ。うまくいかなかったことを考えると空中分解してしまいますよね。

○武藤事務局長 そういうことを今度の仙台の総会で議題にしませんか。

○長島副会長 実はこれに対しての妙案が出せなかったんです。内部では。なので今度

の総会は、ワークショップみたいなのではなくて、時間も余り取れなくて、議論ということで総会らしい総会というのは、そういうことで集まった多くの J O F C の参加団体の方々から声を聞きながら、方向性を提案していただいたとしても、そういう総会がいいのでないかというのが、我々が検討して出した現段階の答えなんです。

- 西川幹事長 えーと、都響倶楽部代表の篠原さん、会長、幹事長、事務局長でなにか。
- 篠原都響倶楽部代表 徐々に移していく用意をするということが必要だと思います。しかし、上田会長は特別ですので、変えられないと思います。

事務方についていえば、2年先か、5年先を考えていくこと、いつかは変わる日が来るわけですので、その時のことを考えてサブをつけて、準備をしていく必要があると思います。

もう一つは今、札幌に事務局があり、ツーカーで物事が判断されて進んでいっていますが、地理的な距離がまたがってしまうと、意思の疎通がうまくいくか、どうか心配になります。そこをどう克服していくというのがあると思います。

- 西川幹事長 今の時代だからメール1本で済む話ですから、そんなに心配する必要がないことかもしれませんが・・・。
- 山田幹事 それはそうかもしれませんが、しかしこうやって顔を合わせて話をするというのと違うと思います。私もそれは危惧しています。同じところでないと難しいような気がします。
- 佐藤幹事 何かと何かを話ししたところで具体的な成果が出るものでないから、人と人の心と心を通じ合っている北海道だから一番スムーズにいらっていると思いますから、このままでいいのではないかと考えています。
- 西川幹事長 スムーズにいき過ぎるからから困るんです。
- 山田幹事 これを引き継がなければいけないから判りますよ。誰かが言うより西川幹事長や武藤事務局長がこうだよと言うと、そうだなとみんな思うんですけど、そうじゃない場合がありますから人によっては、何言ってんだということがありますから、やっぱり人選が非常に難しいと思います。
- 西川幹事長 判りました。皆さんの意向を聞きながらこんな提案させて貰うというところでいかがでしょうか。

西川幹事長については退任、その代わり代務としてここ何年間、幹事長代行で西川が期限を決めて在任すると、というようなことでいかがでしょうか。

それから事務局長についても同様とし、私は会をまたいでもそんなに弊害が出ないような気がするのですが、いずれにしても私も武藤も札幌くらぶにいますので、そして札幌くらぶにおいても後継を作っていかなければいけないという状況に直面していますので、これをまとめると私の幹事長と武藤の事務局長は交代をすると、その代わり3年なら3年間、期限を決めるかどうかは別にしても、終生ということではなくて、代理として参画するというにすると、あくまで本部はその選ばれた人たちになると思うんですけど、こんな提案でどうでしょうか。たぶん、副よりもむしろ私たちがサブに回ったほうがうまくいくかな、という感じもするんですけど、実態はお任せになると思うんですよね。

上田会長との間のやり取りもメールで行い、私もメールでのやり取りしかほとんどしませんので、札幌市内にいましてもそうそう顔を合わせて話すということもないですから、特に問題はないと思うんですけどもいかがなものですか。

何かいいような方と、そうでない方といらっしゃるようですけど。はい、名フィル・ファンクラブ代表幹事の山田さん。

○山田幹事　まあ、交代していかなければいけない時期に来ていると思いますし、佐藤さん（山響ファンクラブ代表幹事の佐藤さん？）達くらいに若い人に移していかないと同じ問題がまた起きてきてしまうので・・・。

○西川幹事長　ただそうなるとバトンは渡しやすいんだと思うんです。今私が留任していたらバトン渡しづらいんだと思うんです。きっと。私、山田さんをお願いといたら、いやーってなると思うんです。でも大したことやってるわけではないので、誰でもできると思うので、むしろそれはサポート側に回ったほうが、明らかに世代交代になっていくのではないかと思います、それは若い世代が J O F C の役員ということでは難しいことですよ。

それぞれの傘下の団体が若返りしない限りは、やっぱり J O F C の代替わりは難しいと思うんですよ。そういう意味では若干のノスタルジーを含めながらこの会を運営していく、ということはそんなに悪いことではない気がするんです。そういう意味では普通の役員会と違って、やあー、やあー、やあーと言って懐かしんでいく、そういう空気は残していきたいと思うし、J O F C というのはそれなりの経歴がもの言うところがあるのかもしれない。

どうでしょうかね。石川県立音楽堂楽友会代表の河内さんどうですか。

○河内幹事　この場に出てきている人たちは、ほとんど創設から変わっていないというのも、ちょっと問題かなと思うんです。徐々に変えていかなければいけないので、それがスムーズにいくように西川幹事長と武藤事務局長にご指導いただいて、何とか誰かに交代していければいいかなと思います。

いつまでもこの顔ぶれということにはならないので、いずれは交代していかなければいけない時が来ると思います。でも、各団体の実情がわかりませんから、何とも言いにくいですね。

○加藤顧問　私が実行委員会と申し上げたのは、J O F C の総会の持ち回り順番なのであって、それぞれのファンクラブの団体がそれを持ち回っていくからこそ、J O F C の意味があるんだと思っていたので、なかなか西川幹事長と武藤事務局長に代わる人がいないと思うんですけど、仮にいらっしゃったとしても、その人たちがまたずーっとということになる可能性がおおいにあるので、その1年間の J O F C の仕事は全て、その持ち回りで回ってきた会が行うというくらい覚悟ができないと、なかなか難しいかなと、お二方に代わっていただくのは、だからこの次の仙台の総会からその次の山形の総会までは、J O F C のことは山響ファンクラブが一切合切やると、でも、そんなに大変、かもしれないけれども、そんなに仕事ができなくなるほどの人が一人いるなんて事にはならないと思うので、その1年間頑張ると、J O F C のことをその持ち回りの会が頑張るというイメージの実行委員会だったんです。

それで、だれかこの中にいる、もしくはこの中にいないけど、ふさわしい人がいるって頼んじゃうと、その人が幹事長になったり、事務局長になったりしてしまうと、その人もまた、かなり長い期間代われなくなってしまうので、その1年間のことをそのまま持ち越していくというイメージがないと、なかなかお二人の代わりはできないのではないかな、と思っていたので私は実行委員会というのを申し上げたのです。

○西川幹事長　その実行委員会を毎年作る、各実行委員会の中で J O F C の幹事長も、

あるいは事務局長も兼務していくということですね。

○加藤顧問 実行委員長を幹事長、事務局長とかでもいいかもしれませんね。実行委員会があって、その上に上田会長がおいでになられる、というようなイメージを私はずっと描いていたのです。

でも、それを引き受けるところがなかなか大変だと思うんです。各団体が大変だと思うんですけど、そういうことでもしていけないと、少なくともお二方は幹事長が幹事長代理になったかもしれないですけど、実質は何も変わらないですよ。

○山田幹事 それはそれで、毎年やってて、全体をもう少し高いところから見ると思うのですよ。それをやっちゃうと目先の総会だけの事だけになってしまうので、総会をやるというのは大変だと思うのですよね、そこでもうちょっと一段高いところから、将来どうしていくんだというのをお二人に見てもらおうというのはどうですか。

○上田会長 そうすると何も変わらなくなってしまうのですよ。

○山田幹事 でも、実行部隊はきちっとやるんですよね。今まで西川幹事長たちがやられているのをどうしようかと、どうして行こうかとい方針みたいなことが一番難しいと思うんですよ。

何が一番難しいですか。

○西川幹事長 やはり、どれだけ役に立っているか、どういう成果を出したのか、この検証と次に何をしなければならぬのか、そのためには何年前からどういうふうに造り込んでいかなければいけないのか、ということは結構大きなテーマでしょうね。

ただ、私も会長と酒飲みのとき会ったときぐらいにそういうことをあらかじめ相談しておいて、事務局長と具体化するというやり方ですよ。

そんなにしょっちゅうやっている訳ではなくて、「やっぱり大きいビジョンがないと、こうしたいということがないと、それはなかなか難しいですよ」という声あり）どうなんでしょうね。ただやっぱり事務局長は事業仕分けのとき皆さんご存知ですか、一斉に事業仕分け、民主党の中で何をしても、私たちはすぐ抗議文を送りましたよね。

ああいうふうな事が確かに機敏さが求められるかもしれない。ただ、それは私や武藤がいますから、それなりに対応できると思います。

○長島副会長 その辺のお話の何というのですかね、成果というか、落としどころが仙台の総会で西川幹事長が提案なさって、進めていただければな、「じゃあ持ち越せということね」という声あり）いやいや、この場だけでは結論を得るのは難しいと思います。

（「この場で結論を出すのはまずいと」という声あり）会にも持ち帰らなきゃいけないかなと思っています。また、あと夕方お願いいたします。

○西川幹事長 今、三案出ていて、一つは、私が提案したように幹事長、事務局長は代理として今後就きます、ということで新たな幹事長、あるいは事務局長を選んでくださいませんか、という提案が一つ。

もう一つは加藤顧問から出ていたように各実行委員会が幹事長も、事務局長も引き受けたらどうだ、そのことによって、もちろん私や武藤はそれをバックアップしていくことになると思うんですけど、そうしないと変わらないんじゃないか、というようなやり方もあるんじゃないかと。

それからもう一つは、当面、現役員はこのままにしておいて、仙台の幹事会でこの議論をしたらどうか、というのが合わせて提案されています。

この三つですよ。いいですよ。

- 武藤事務局長 仙台の幹事会というよりも、幹事会は検討機関で決定機関ではないので、「総会で決定ですからね」という声あり）総会で決定することなので、仙台の総会で他のことをやらないで、このことを集中的にやったらどうだということに話になっているのではないか、と思うんです。
- 西川幹事長 それをやっても同じことを繰り返すのではないかと思いますけど。
- 武藤事務局長 繰り返すけども、案が出てくる可能性もないとは言えない。その前に皆さんに本当に真剣に考えてください、ということをお私たちのほうから提議していく。
- 山田幹事 他人事でないですよ。
- 武藤事務局長 そうです。他人事じゃないです。
- 上田会長 自分の事ですよ。
- 山田幹事 自分の事として考えて、どうしたいのかということをお考えてほしいと思います。
- 西川幹事長 じゃ、そんなところでケリをつけますか。
- 佐藤幹事 仙台の総会までに何らかの道筋をつけられればいいんじゃないですか。
- 西川幹事長 私が幹事長やります、事務局長やります、と手を挙げてもらえれば、それが一番いいです。私のほうは代理としてはずっとやりますので、その辺のところは総会で決定していきたいということにしたいと思います。
- 加藤顧問 お三方は J O F C の三役なんですよ。
お三方が変わるといのは、なかなかきつと思いますよ。実質の1年間を切り盛りすることは山田さんがおっしゃるとおりできると思うんですけど、政策的な事とか、やっぱり上田さんのそばにいて、高所から俯瞰できるんですよ。
- 上田会長 人事の話はちょっと組織の話もあるから脇に置いて、目標を何に置くかということで新しい政策、ファンクラブの目標というのはクラシックやオーケストラのファンをいかに増やすか、という運動を市民にどう浸透させていくか、ということだと思うんですよ。
だから、演奏会で立派な演奏をしていただくのは当然なことですけど、街に出てほしいと、オーケストラが、市民の前でクラシックは関係ないと思っている人たちの前で、本物の音を聴かせてやって欲しいという運動を、街角コンサートだとか、そういうものを色々ところで、自分たちのオーケストラにお願いできる、やりませんかと言っただく、あの町でもやっている、この町でもやっている、という、例えば名古屋だったら地下街にあるあそこのスポットだね、名フィルだね、まあ4人か5人でやってもいいからね、「地下鉄ではやっています」という声あり）ああそうですか、そういうのがあちこちで起こるような運動を起こしていくことができるような・・・。
- 山田幹事 話それて申し訳ないんですが、地下街とか、ああいうところにピアノ1台置いてあるだけで、あれだけみんなピアノが弾けるんですものね。
金沢にも置いてあって、あれ素晴らしいですよ。
- 上田会長 今、札幌でも始めますよ。
- 山田幹事 他にもありましたよね。
- 武藤事務局長 えっとね、小樽にもあります。
- 上田会長 小樽にね。商店街にね。
そういうようなこともこの後ちょっと飲みながら、また、話しましょう。
- 武藤事務局長 仙台フィルハーモニッククラブの熊谷さん、ちょっといいですか。最後

にその他で長島会長から指摘されていることがあるのですけれど・・・。

お聞きになっていませんか。

- 熊谷さん（仙台フィルハーモニークラブ） ええーっ、どんなことですか。
- 武藤事務局長 仙台総会の日程と、日本フィルの所沢支部から札幌くらぶのHPをリンクさせてもらえないか、ということなんですが。
- 熊谷さん（仙台フィルハーモニークラブ） HPにリンクを？
- 武藤事務局長 日本フィルの所沢支部のHPに札幌くらぶのHPをリンクさせて欲しいということです。
- 熊谷さん（仙台フィルハーモニークラブ） その話は聞いていません。
仙台総会は、11月23日に決まっています。
レジデント・コンダクターの高関さんが指揮をして、演目はチョット忘れましたが、それを聴いていただきまして、高関さんには交流会に参加していただいておりますと、色々なことを考えています。
先ほど、会長が話しておりましたとおり、もし上田会長が仙台に来ていただけるならば、仙台市長も出ていただけるのではないかと、期待しているとのコメントを聞いています。
- 加藤顧問 一日だけのプログラムですか、翌日に持ち越さないプログラムですか。
- 上田会長 予定には入っていますよ。私は行くことにしています。
- 熊谷さん（仙台フィルハーモニークラブ） ありがとうございます。よろしくお願いいたします。
- 西川幹事長 じゃー、今の話は飲み会の場に続けていきましょう。